

病院統合再編 地域説明会が開催されました

●お問い合わせ／市企画調整課企画調整係 ☎26-5704

2月24日(土)、25日(日)の二日間、市立酒田病院と県立日本海病院の統合再編に関する地域説明会が、酒田産業会館とひらたタウンセンターで開催されました。

はじめに山形県・酒田市病院統合再編協議会事務局から「病院統合再編整備基本構想案」について説明がありました。参加した市民からは「今後は団塊の世代の高齢化により、患者数が増えるのではないかと、病床数を減らしてよいのか」「統合再編には反対である。市立酒田病院の改築のマスタープ



2月24日地域説明会(酒田産業会館)

ラン(基本計画)に基づき単独改築すべきである」「3月末まで基本構想を決定する予定になっているが、市民に関係する重要な問題であるので、急がず慎重に対応してほしい」といった質問や意見が出されました。

これに対し、事務局および本市からは「年齢構造等の変化による患者数の変動要因は、基本構想案の病床数の試算に含めている。医療技術の進歩による入院日数の減少もあり、病床が不足することはない。すでに両病院で200床くらい空床になっている」「平成16年度に策定したマスタープランどおりに改築すると、病床数が過剰になり経営も悪化する。単独改築では150億円ほどの建設費用がかかり、その返済は毎年5億円になるので、現在の収支では厳しい経営状況になる」「このような説明会のほか、市の出前講座などを通じて、地域の皆さんに説明をしていく、意見募集も行っている。基本構想策定後も皆さんから意見をいただく機会を設けていく」との回答や説明がありました。

第1回経営形態のあり方に関する有識者委員会が開催されました

新しい統合後の病院は、県と市が共同で新たな団体を設立して運営していくこととなります。その経営形態として整備基本構想案では「地方独立行政法人」または「一部事務組合」を選択することとしています。専門的な立場から意見をいただく第1回経営形態のあり方に関する有識者委員会(委員5人)が2月26日(月)、県庁で開催されました。当日は両病院の職員団体を代表して、それぞれの組合の執行委員長が出席しました。

県病院事業局職員労働組合執行委員長からは、「地域の医療サービスの向上が図られるならば統合再編は理解できる。地方独立行政法人の制度は始まったばかりで検証の段階になっていない。一部事務組合のほうが見たい」と、また、市立酒田病院労働組合執行委員長からは、「統合再編には反対。業績、成績主義を病院経営に導入すべきでない。身分は公務員とすべき」

との意見が述べられました。委員からは「現在の医療制度の流れは効率化。集約化、機能分担、連携が重要である」「医療行政だけでなく、公務員制度自体が今後どうなるかわからない」などの意見が出されました。

病院統合再編Q&A

Q 外来患者が集中して、待ち時間が長くないですか。

A 外来機能を十分検討し、外来診療室の再編を行い、待ち時間が長くないようにしていきます。

Q このような市立病院と県立病院の統合はほかの地域でもありま

A 全国では、高知県、岩手県で市立病院と県立病院が統合した例があります。

出前講座を実施しています

開催希望日の2週間前までに、直接またはファクシミリ、Eメールで市まちづくり推進課地域づくり係 ☎26-5725、FAX 26-3688、Eメール/machi@city.sakatago.jpへ申し込んでください。